

い一件議定〔B〕

議定一札之事

一当国赤城山与申ハ一国一山ニ而、南表之義ハ、「野先村々百四拾
余村入会、原間之分ハ」株・落葉・薪取場ニ御座候処、去ル元
録年中、「同山之内三夜沢村社人、赤城大明神御朱印」地与申
紛、外山谷々等迄押領いたし、其砌、「右百四拾余村ニ而御訴
訟申上、及三出入、赤城」大明神御朱印地相分り、則御裁許之
上御「絵図面頂戴仕罷有候、然ル処、室沢村孫兵衛、」同山南
表江炭竈数ヶ所相立、右立木」伐取候ニ付、組村之内六拾ヶ村
余相談之上、「村々御領主・御支配様江御願奉ニ申上候処、右」
孫兵衛義、御運上炭御上納仕、伐木いたし候由「被ニ仰聞候
ニ付、右御運上炭之義ハ、願村々江」引請、代永被ニ仰付、
一同御不益ニ不ニ相成」様ニ仕候間、孫兵衛炭焼出し候義ハ御
差留ニ」相成、組村一同難レ有仕合ニ奉レ存候、然処、今般」三
夜沢社人先元録年中論所御裁許」絵図面之内、荒山之深谷立木
売払申候ニ付、「組村一同相談仕候処、社人方ニ而売払候而ハ、」
御裁許御絵図面并ニ御炭役御上納之」処茂、皆亡書ニ相成候間、
右社人方江伐木」之義相断、其上無ニ聞入立木伐取ニおゐて
ハ、「組村之内ハ檀廻之義茂相断、右之段御」訴訟相成、其上何
ケ様之義出来候共、諸」入用差支なく差出シ、万事一同相談ニ
可仕候、「右議定仕候上ハ、少茂違犯仕間鋪候、為ニ後日ニ議定一
札仕処、依而如レ件

嘉永二年酉ノ七月

林部善太左衛門支配

松平大和守領分

酒井大学頭 同

秋元但馬守 同

本多越中守 同

大岡主膳正 同

稲葉丹後守 同

堀田摂津守 同

加納備中守 同

小笠原若狭守知行所

田沼安三郎 同

久保田重左衛門 同

倉橋内匠 同

佐々木近江守 同

大島雲平 同

上野国勢多郡

女 淵 村 印

深 津 村 印